

平成30年12月25日



平成30年名古屋港10大ニュース
記者会見資料について
平成30年名古屋港港湾統計年推計

本日、会見発表しました標記の件につき、資料をお送りいたします。

(この紙を含めず14枚)

お問い合わせ先

10大ニュース

総務部広報・にぎわい振興担当 (担当: 木下・伊藤)

TEL 052-654-7957

港湾統計年推計

企画調整室統計センター (担当: 北村・久米)

TEL 052-654-8019

平成30年（2018年）名古屋港10大ニュース

【物流関連】

- ◎ 総取扱貨物量17年連続日本一へ
- ◎ コンテナ及び完成自動車取扱機能の強化進む
～ 飛島・金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 ～
- ◎ コンテナ船の大型化に対応
～ 飛島ふ頭のCTでガントリークレーンを更新、
400mのコンテナ船の受入れが可能に ～
- ◎ LNGバンカリング拠点形成へ
～ 全国初のインセンティブ創設を公表 ～

【防災・危機管理関連】

- ◎ 台風21号・24号相次いで接近

【親しまれる港づくり関連】

- ◎ 名古屋港水族館、更に充実した施設へ
～ 大型映像装置リニューアルなど ～
- ◎ 名古屋港及び周辺のにぎわい施設の開発一層進む
～ みなとアクルスへも水上交通つながる ～
- ◎ クルーズ船誘致に向けた取組を強化
～ ガーデンふ頭で岸壁延伸工事着手など ～
- ◎ 名古屋港初のネーミングライツ導入
「ウッドフレンズ名古屋港ゴルフ倶楽部」

【国際交流関連】

- ◎ HAROPA-ル・アーヴル港とのパートナーシップ港提携

総取扱貨物量17年連続日本一へ

平成30年の名古屋港港湾統計の推計値がこのほどまとまった。

総取扱貨物量は、1億9,400万トンと、17年連続で日本一を堅持する見込みとなった。

また、外貿コンテナ取扱個数は、271万TEUと、過去最高であった平成19年の264万TEUを上回る見込みとなった。

外貿貨物では輸入で原油等が減少したものの、輸出で完成自動車等が増加し、前年より増加となる見込み。

貨物の内訳では、背後地域の産業構成を反映して、完成自動車、自動車部品、産業機械の輸出と、LNG、鉄鉱石、原油、石炭などの産業及び暮らしを支える原材料の輸入が大ききなウエイトを占める。

取扱貨物量	平成30年推計値	平成29年実績	前年比 (%)
総取扱貨物量 (千トン)	194,000	195,968	99.0
外貿コンテナ取扱個数 (千TEU)	2,708	2,589	104.6

コンテナ及び完成自動車取扱機能の強化進む

～ 飛島・金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 ～

飛島ふ頭のNCBコンテナターミナルにおいて、「飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業」を進めている。同コンテナターミナルのR1岸壁では、岸壁の耐震化及び水深15m化の改良工事に平成29年度から着手し、現在は、岸壁改良に向け背後の護岸改良工事を実施している。

また、金城ふ頭において、「金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業」を進めている。同ふ頭の84号岸壁の一部増深（水深10mから12m、延長80m）を昨年度完了し、現在は、金城ふ頭1・2突間で新規の耐震強化岸壁（延長260m）及び岸壁背後にモータープールを確保するための用地整備に向け、埋立免許等を11月に取得し、12月に工事着手した。

これらの事業について、引き続き早期完了を目指し、コンテナ物流のさらなる効率化や完成自動車取扱機能の集約・拠点化、船舶の大型化への対応を進めていく。

コンテナ船の大型化に対応

～ 飛島ふ頭のCTでガントリークレーンを更新、
400mのコンテナ船の受入れが可能に ～

名古屋四日市国際港湾株式会社（名四港湾株）は、飛島ふ頭南コンテナターミナルにおいて、8月に老朽化が進む既存の16列対応ガントリークレーン1基（2号機）を撤去し、大型船舶に対応した20列対応、ツインスプレッドの高規格なガントリークレーンに更新し、9月に供用を開始した。

なお、昨年11月には20列対応のガントリークレーン1基（6号機）を増設し、現在6基体制で運営している。

名四港湾株は、昨年9月に伊勢湾（名古屋港・四日市港）の港湾運営会社として国から指定され、両港のコンテナターミナルの運營業務を開始している。4月には、中期経営計画を公表し、コンテナターミナルの更なる効率的な管理運営・機能強化に取り組むこととしている。

飛島ふ頭南側コンテナターミナルでは、これまで全長370m以下のコンテナ船を受入最大船型としていたが、12月10日より世界最大となる全長400mの大型コンテナ船の受入れが可能となった。

今後も、名四港湾株は老朽化したガントリークレーンを順次更新する等、コンテナターミナルの機能強化を進めていく。

LNGバンカリング拠点形成へ

～ 全国初のインセンティブ創設を公表 ～

名古屋港管理組合は、四日市港管理組合及び愛知県とともに今後普及が見込まれるLNG燃料船への対応として、LNGバンカリング拠点の形成に向け、LNGバンカリングを対象とする全国初のインセンティブ（LNG燃料船及びLNG燃料供給船の入港料減免）の創設について、連携して取り組むことを10月26日に公表した。

国際海事機関（IMO）は2020年以降、燃料油に含まれる硫黄分濃度に対する規制をさらに強化することを決定しており、従来の燃料である重油と比較し、環境負荷が低いLNGを燃料とする船舶が今後増加していくと予想されている。

今後は、伊勢湾においてLNGバンカリング拠点の形成に向けた取組を進めることにより、背後圏に立地するものづくり産業を始めとしたサプライチェーン全体での環境負荷の低減に努める企業ニーズに対応するとともに、更なる物流の利便性向上・競争力強化を図り、選ばれる港として港湾機能の維持・拡充に努めていく。

（LNGバンカリング拠点形成支援事業）

国は、LNGバンカリング拠点を形成するために補助制度を創設しており、セントラルLNG SHIPPING(株)（川崎汽船(株)、中部電力(株)、豊田通商(株)及び日本郵船(株)の合弁会社）及び中部電力(株)が事業者となる「伊勢湾・三河湾LNGバンカリング事業」を採択している。

台風21号・24号相次いで接近

本年は、大阪北部地震や西日本豪雨、北海道地震、台風の相次ぐ襲来など、多くの自然災害があった。

9月には、台風21号・24号が相次いで日本に上陸し、名古屋港においても臨港緑地の倒木や新舞子マリパーク人工海浜ブルーサンビーチの砂の流出等があった。台風24号では、名古屋地方気象台が伊勢湾台風による過去最高潮位に匹敵する記録的な高潮となる恐れがあると発表し、一時緊張感が高まったが、幸い物流には大きな影響はなかった。

国土交通省中部地方整備局は、台風21号による大阪湾内の港湾の高潮被害等を踏まえ、学識者及び行政機関等からなる「中部の港湾における高潮・暴風対策検討委員会」を設置した。

本組合は、同委員会に参画するとともに必要な対策を検討している。

名古屋港水族館、更に充実した施設へ

～ 大型映像装置リニューアルなど ～

名古屋港水族館は、4月18日にメインプールの大型映像装置をリニューアルした。解像度や色表現が格段に向上し、フルハイビジョン映像となった新しい大型映像装置では、迫力ある映像で「イルカパフォーマンス」や「シャチの公開トレーニング」が楽しめるようになった。

記録的な猛暑が続いた中、夏季限定のイルカパフォーマンスや、シャチ・ベルーガの公開トレーニングなどのイベントに加え、7月14日からは、特別展「へん(だけど)カワ(イイいきもの)展」、7月21日からは、クラゲの常設展示室「くらげなごりうむ」が新たに始まり、好評を得ている。

また、名古屋港水族館初となる人工授精により、バンドウイルカ1頭が5月17日に誕生した。産まれたイルカは順調に成長し、母子の展示が人気を博している。国内での人工授精による出産の成功例は、国内3例目となる。

名古屋港水族館では、4月1日から館内全体で公衆無線LANサービスの提供を開始した。また、名古屋港ポートビル及びポートハウスにおいても、ガーデンふ頭における一般来港者の利便性の向上と、にぎわい創出・活性化を図るため、11月1日からサービスの提供を開始した。

名古屋港及び周辺のにぎわい施設の開発一層進む

～ みなとアクルスへも水上交通つながる ～

金城ふ頭の屋外型テーマパーク「LEGOLAND® Japan」の隣接地に、4月15日「見て、さわって、学んで」体験できる水族館「SEA LIFE Nagoya」が、同月28日には「LEGOLAND® Japan Hotel」が相次いでオープン。テーマパーク、ホテル、水族館を含めた「LEGOLAND® Japan Resort」としてグランドオープンしたことにより、新たなにぎわい拠点として生まれ変わった。これにより、名古屋港のにぎわい施設の開発が一層進展した。

また、9月28日には、名古屋市港区港明に東海3県では初進出となる大型商業施設「ららぽーと名古屋みなとアクルス」がオープンし、多くの人でにぎわっている。同施設に、ささしまライブから中川運河を通過して金城ふ頭までを結ぶ水上交通「クルーズ名古屋」の乗船場を新設。名古屋の都心と港を結ぶ周遊コースに新たなにぎわいスポットが加わり、水上交通の利用者の増加も期待される。

クルーズ船誘致に向けた取組を強化

～ ガーデンふ頭で岸壁延伸工事着手など ～

名古屋港のクルーズ船の受入れは、ガーデンふ頭を中心に行っており、同ふ頭に着岸できない大型クルーズ船については暫定的に金城ふ頭西側で対応している。こうした中、本年、各ふ頭においてクルーズ船に対応した取組が行われた。

ガーデンふ頭においては、ポートビル船客待合所の利便性向上等を図るため、3号岸壁の老朽化対策に合わせて80m延伸工事に着手、平成30年度末に完了予定である。これにより、ガーデンふ頭への寄港要望の多い日本船社のクルーズ船を2隻同時に着岸させることが可能となる。また、屋根付き通路の設置にも取り組んでおり、今年度は設計を実施し、平成31年度の完了を目指している。

金城ふ頭においては、本年11月から「ダイヤモンド・プリンセス」によるインターポーティングでの寄港も始まり、来年3月までに計9回の入港が予定されている。

クルーズ船の誘致については、行政機関、関係団体・企業参加のもと「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」（事務局：本組合及び名古屋商工会議所）において、本年4月に取りまとめられた「名古屋港クルーズ船誘致に向けた行動計画」をもとに、効果的な取組を進めている。

なお、本年は40回クルーズ船が入港したが、同行動計画においては、平成34年度のクルーズ船誘致目標数を60回と設定している。

名古屋港初のネーミングライツ導入 「ウッドフレンズ名古屋港ゴルフ倶楽部」

名古屋港管理組合では、民間の資金を活用して名古屋港ゴルフ倶楽部（富浜コース）における一層の施設利用者へのサービス向上を図るため、同ゴルフ倶楽部にふさわしい愛称（企業名、商品名など）を付けることができる権利を取得するネーミングライツパートナーを募集。外部有識者による選定委員会の審査を踏まえ、パートナーを決定し、2月15日に公表した。

パートナーに決定したのは、平成30年4月から新たに同ゴルフ倶楽部の指定管理者（平成34年3月まで）となった株式会社ウッドフレンズ。ネーミングライツ料は年額275万4千円（消費税及び地方消費税込）。これにより、同ゴルフ倶楽部の愛称は4月から「ウッドフレンズ名古屋港ゴルフ倶楽部」となった。

同ゴルフ倶楽部では、10月からのプレー料金の値下げや、新たなコンペの企画などでにぎわいを見せている。

HAROPA-ル・アーヴル港とのパートナーシップ港提携

名古屋港管理組合は、フランスのHAROPA-ル・アーヴル港と、両港間の貿易促進とビジネス拡大を目的としたパートナーシップ港の提携を行った。

10月16日、名古屋港管理組合 服部明彦専任副管理者とHAROPA-ル・アーヴル港 エルヴェ・マルテルCEOが名古屋観光ホテルで調印した。

パートナーシップ港提携は、平成23年11月の上海国際港務集団（SIPG）、平成24年10月のタイ港湾公社（PAT）、平成25年7月のゼーブルージュ港湾公社（MBZ）に続き4港目となる。

HAROPAは、2012年に産業、物流、観光分野における汎欧州規模の港湾サービスを提供することを目的としてセーヌ川流域3港湾（ル・アーヴル港、ルーアン港、パリ港）により設立された組織で、各港のマーケティング、広報等を行っている。ル・アーヴル港は対外的にはHAROPA-ル・アーヴル港の名称で活動を行っている。

ル・アーヴル港はフランス最大のコンテナ港で、名古屋港とはコンテナ定期航路で結ばれている。昨年の総取扱貨物量は約7,300万トン、コンテナ取扱量は約286万TEUである。同港の位置するフランス北部地域には、中部地方から自動車関連産業等が多数進出しており、フランスを含む欧州中部から西部の広い背後圏を有している。

【物流関連】

総取扱貨物量17年連続日本一へ



コンテナ及び完成自動車取扱機能の強化進む

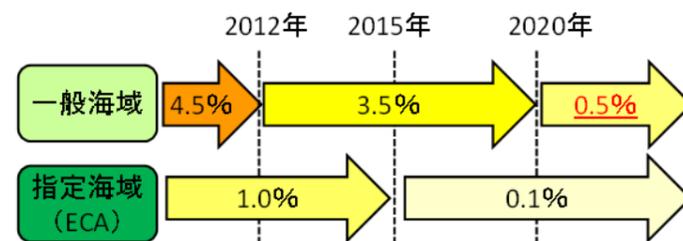


コンテナ船の大型化に対応



LNGバンカリング拠点形成へ

【燃料油に含まれる硫黄分濃度規制】



※指定海域 (ECA) とは欧州・北米における規制の厳しい海域のこと

【防災・危機管理関連】

台風21号・24号相次いで接近

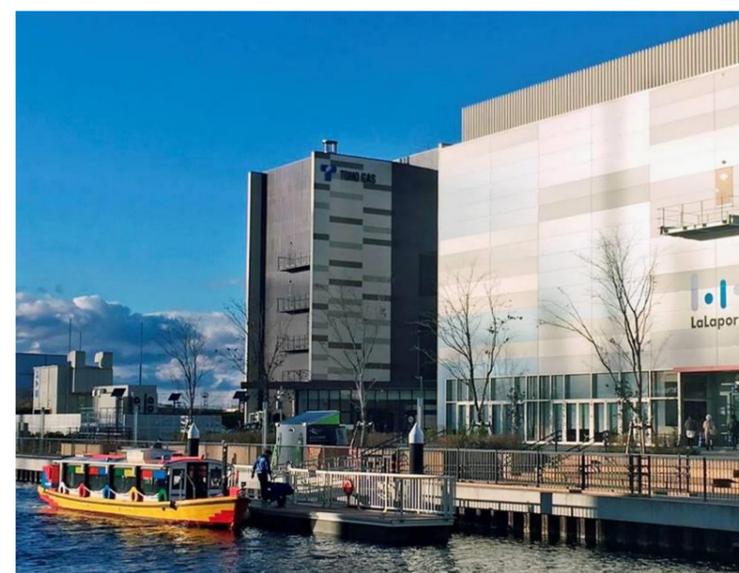


【親しまれる港づくり関連】

名古屋港水族館、更に充実した施設へ



名古屋港及び周辺のにぎわい施設の開発一層進む

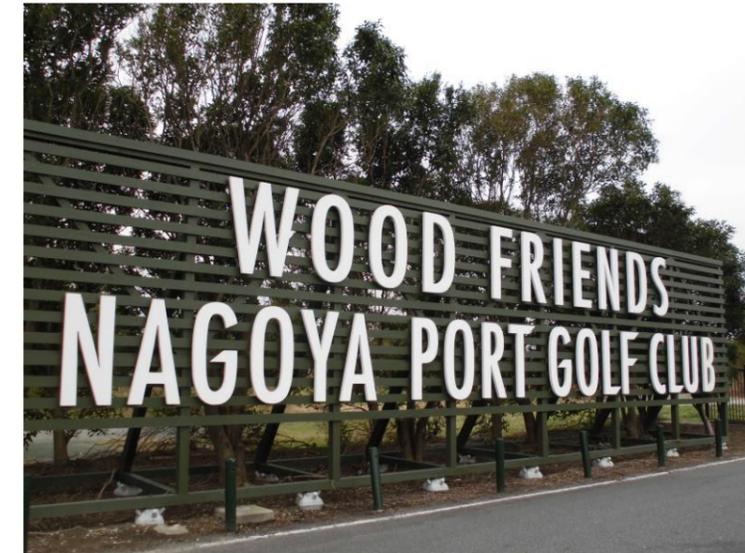


クルーズ船誘致に向けた取組を強化



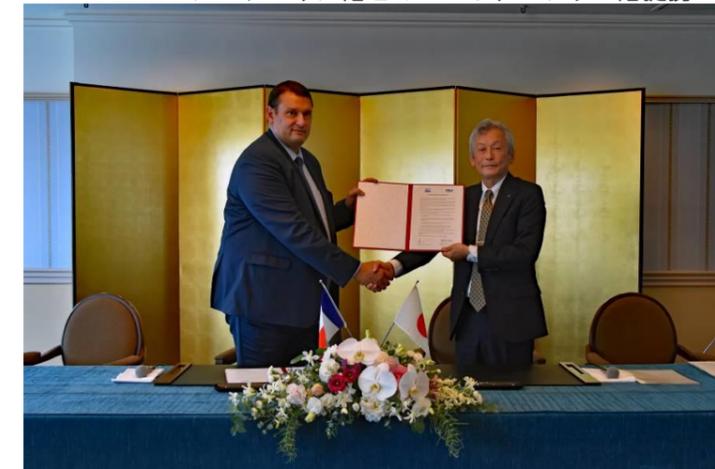
名古屋港初のネーミングライツ導入

「ウッドフレンズ名古屋港ゴルフ倶楽部」



【国際交流関連】

HAROPA-ル・アーヴル港とのパートナーシップ港提携



※各写真はデータでも提供可能です。

kouhou@union.nagoyako.lg.jp

名古屋港管理組合広報・にぎわい振興室までご連絡ください。

平成30年名古屋港港湾統計年推計

入 港 船 舶		平成30年推計値	平成29年実績	前年比(%)
総 数	隻数(隻)	32,700	32,948	99.2
	総トン数 (千総トン)	234,700	229,891	102.1

取 扱 貨 物 量		平成30年推計値	平成29年実績	前年比(%)
総取扱貨物量 (千トン)		194,000	195,968	99.0
内 訳	外貿貨物	129,000	127,883	100.9
	内貿貨物	65,000	68,085	95.5
コンテナ総取扱個数 (千TEU)		2,886	2,784	103.7
内 訳	外貿コンテナ	2,708	2,589	104.6
	内貿コンテナ	177	196	90.3

平成 29 年 までの 最 高 記 録

入 港 船 舶 隻 数	72,521 隻	昭和44年
船 舶 総 ト ン 数	241,783,906 トン	平成19年
総 取 扱 貨 物 量	218,130,496 トン	平成20年
外 貿 貨 物 量	140,611,794 トン	平成25年
内 貿 貨 物 量	80,685,587 トン	平成19年
コンテナ総取扱個数	2,896,221 TEU	平成19年
コンテナ個数(外貿)	2,638,447 TEU	平成19年
コンテナ個数(内貿)	257,774 TEU	平成19年

※ 内貿コンテナは平成10年より集計開始

平成 30 年名古屋港港湾統計年推計

平成 30 年名古屋港港湾統計の年推計は以下のとおりとなりました。

入港船舶の総数は、外航船で、セミコンテナ船等が増加しますが、内航船で、油送船等が減少し、隻数は 3 万 2,700 隻（前年比 0.8%減）と減少し、総トン数は、外航船で、自動車専用船等が増加し、2 億 3,470 万総トン（同 2.1%増）と前年より増加する見込みです。

総取扱貨物量は、外貿貨物が 1 億 2,900 万トン（同 0.9%増）となり、輸入では原油等が減少しますが、輸出で完成自動車等が増加し、前年より増加となる見込みです。内貿貨物は 6,500 万トン（同 4.5%減）で、完成自動車が移出入ともに減少し、前年より減少となる見込みです。全体では 1 億 9,400 万トン（同 1.0%減）となり、17 年連続で日本一を堅持する見込みです。

また、外貿コンテナ取扱個数については、271 万 TEU（前年比 4.6%増）となり、過去最高となる見込みです。